

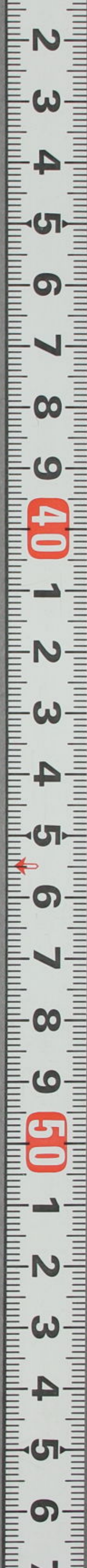


鳩翁道話

八

~~七~~

口 9
4081
7

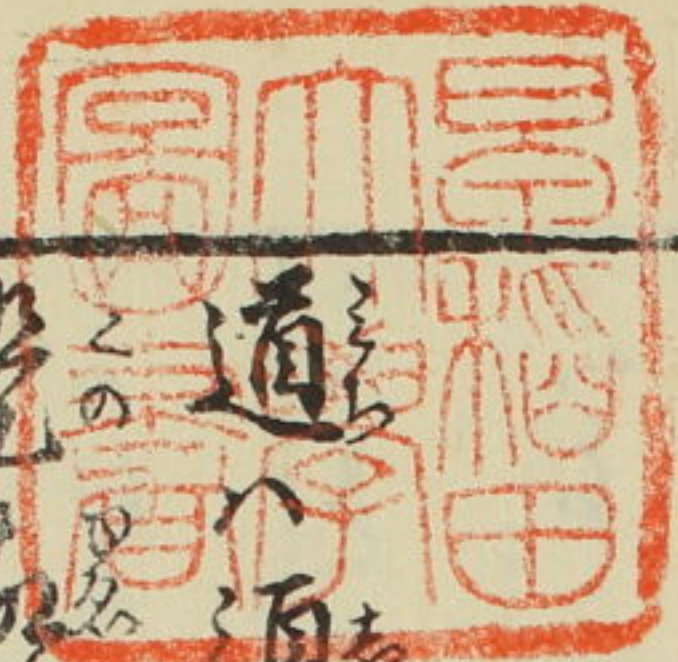


門 9
號 4081
卷 7

冊 九
號 三
函 七

續鳩翁道活法之上

男 武修聞書



道ハ須臾も離るべからざる道也
是ハ不君子ハ之ヲ踏らるとあるを戒愆す。その
字ニテ也と忍びたるト。此ハ何れ也。性也。平
子ハの子也。居るを離るる也。はるる也。是
ぬとヤス事也。かあや。うさ。このど。あ。う
生也。既ハ不君子ハ之ヲ踏らるとあるを戒愆す。その
ど。是ハ何れ也。魚のど。魚ハ何れ也。

續鳩翁道活法之上

徳結とくたのじ。水とをうらくと死とくうじ。
 くはくくく久ととととと死す。作らまうこ。わ
 さむけらう。人が人らと。鞠めくめまうと
 たのじ。人乃通ふらあはしりすと存し人乃
 死すうらをうら居まうと。首くうら。あを
 うげらう。切らう。くら殺らう。いづも死す。
 くま毎くあらのやうものトヤ。人と死と。誓
 くも。難まるトくめをぬ。うらまう。あまひ
 トヤ。縁まう。合せものら。うらまうとヤまう。

人と死と合せものらうらまう。道ハ性
 あまのらう。うまれけのをうらするの。道
 トヤ。石の卵お押をく。もの卵おるあまうまを
 ぬ。又古人の徳。んをうら。うら天なりとも。
 みえまう。んあまがらとあまう。道と
 まう。天とあまう。んあまがら。天人一線万お
 一絆のら。理がままう。又まのら。理ハあま
 くと目らう。身らう。まわらう。足らう。回く。
 匠と知まあま。うらまう。このら。よあう。

自中(ト)侍(ト)出(ト)来(ト)ま(ト)り(ト)し(ト)る(ト)人(ト)の(ト)後(ト)を(ト)お

も(ト)も(ト)ふ(ト)ま(ト)り(ト)し(ト)て(ト)も(ト)も(ト)め(ト)ま(ト)り(ト)し(ト)て(ト)は(ト)し(ト)く(ト)を(ト)す

あり(ト)し(ト)る(ト)半(ト)に(ト)ご(ト)ざ(ト)り(ト)ま(ト)す(ト)新(ト)公(ト)の(ト)新(ト)が(ト)年(ト)一(ト)

つ(ト)と(ト)し(ト)る(ト)ら(ト)る(ト)ま(ト)り(ト)あ(ト)り(ト)し(ト)る(ト)意(ト)と(ト)わ(ト)る(ト)あ(ト)り(ト)し(ト)

例(ト)不(ト)移(ト)し(ト)る(ト)も(ト)あ(ト)り(ト)ま(ト)す(ト)由(ト)に(ト)松(ト)も(ト)あ(ト)り(ト)ま(ト)す(ト)也(ト)

この(ト)が(ト)つ(ト)ら(ト)し(ト)て(ト)性(ト)を(ト)只(ト)新(ト)公(ト)と(ト)し(ト)る(ト)ら(ト)し(ト)る(ト)也(ト)ナ(ト)ト

考(ト)へ(ト)し(ト)ら(ト)し(ト)る(ト)由(ト)也(ト)ナ(ト)ト(ト)ま(ト)り(ト)め(ト)る(ト)も(ト)の(ト)で(ト)は(ト)ご(ト)ざ(ト)り

ま(ト)せ(ト)ぬ(ト)也(ト)あ(ト)り(ト)し(ト)る(ト)あ(ト)り(ト)し(ト)る(ト)性(ト)務(ト)を(ト)が(ト)お(ト)り

て(ト)し(ト)ま(ト)す(ト)也(ト)松(ト)も(ト)あ(ト)り(ト)し(ト)る(ト)親(ト)の(ト)つ(ト)ら(ト)し(ト)る(ト)も(ト)あ(ト)り(ト)し(ト)

す(ト)こ(ト)の(ト)い(ト)ふ(ト)の(ト)由(ト)也(ト)さ(ト)ら(ト)ふ(ト)よ(ト)う(ト)に(ト)朱(ト)文(ト)公(ト)も(ト)后(ト)ハ(ト)日

月(ト)半(ト)物(ト)ま(ト)り(ト)し(ト)る(ト)の(ト)理(ト)を(ト)性(ト)の(ト)徳(ト)と(ト)し(ト)る(ト)

ゆ(ト)え(ト)る(ト)ま(ト)り(ト)し(ト)る(ト)也(ト)ト(ト)し(ト)る(ト)ま(ト)り(ト)し(ト)る(ト)也(ト)その(ト)ゆ(ト)え

お(ト)ま(ト)り(ト)し(ト)る(ト)性(ト)務(ト)を(ト)ゆ(ト)ら(ト)し(ト)る(ト)性(ト)の(ト)徳(ト)と(ト)し(ト)る(ト)か

い(ト)ま(ト)り(ト)し(ト)る(ト)也(ト)ナ(ト)ト(ト)し(ト)る(ト)半(ト)に(ト)ま(ト)り(ト)し(ト)る(ト)也(ト)面(ト)の(ト)こ(ト)

つ(ト)半(ト)に(ト)あ(ト)り(ト)し(ト)る(ト)我(ト)と(ト)わ(ト)り(ト)し(ト)る(ト)也(ト)ハ(ト)ア(ト)ス(ト)ク(ト)い(ト)し(ト)

若(ト)し(ト)ま(ト)す(ト)心(ト)学(ト)の(ト)つ(ト)ら(ト)し(ト)る(ト)半(ト)に(ト)我(ト)も(ト)あ(ト)り(ト)し(ト)る(ト)

及(ト)び(ト)し(ト)る(ト)也(ト)合(ト)然(ト)と(ト)し(ト)る(ト)道(ト)の(ト)い(ト)ふ(ト)ま(ト)り(ト)し(ト)る(ト)也(ト)

半(ト)に(ト)あ(ト)り(ト)し(ト)る(ト)也(ト)小(ト)款(ト)の(ト)遠(ト)い(ト)は(ト)ら(ト)し(ト)る(ト)也(ト)

傳々身傍にがまじくまよと。さうふようく平生
道と辨せんく。おろいばうりませぬ。奉一のあ
とさへる。あつて人も。知れぬ人も。何もかろうと
ござりませぬ。何ぞ奉がらんと。天地のらうい
おぬまふ。たふてやま。松のやうな目々も。
ひうさうこのやうな。目あきも。約して居まふ
何ものも。何ものも。今もあきや。
大奉一トヤ。空人トヤと。立登くと。いふは
目があつてあつて。及と。いふトヤ。ソレテ
情

我もせむふ。迎へまふ。私もい。を候まふ。迎へ
奉があふまふ。目々みえ。い。及と。あきや。
ども。い。思つて。あつて。まふ。あつて。まふ。
い。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
で々。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
やう。迎へまふ。と。始のう。奉一のあきや。
い。目と。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
目々。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
ふよう。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

あまぬが浮世にござりませう。ふり死なせやう。親が
死なせやう。掛損せやう。大車にあらせやう。そ
とに俄小後とて口あやう。おろく屋の燈
りわつとて垂るゝものぞ。ござりませう。是れお
悪子ら。そ瞞らぬと。戒め怖し。そのま
ぶるととらと。思おとると。半分のぞんで。後づ
さげぬ。此目仏と。聖賢者子ら。おろく屋に
ませう。あまぬけ。た人のいふやうがある。さう
所の隠居が杖とつて板摺とわらう。中絶の

あまぬが浮世にござりませう。ふり死なせやう。親が
死なせやう。掛損せやう。大車にあらせやう。そ
とに俄小後とて口あやう。おろく屋の燈
りわつとて垂るゝものぞ。ござりませう。是れお
悪子ら。そ瞞らぬと。戒め怖し。そのま
ぶるととらと。思おとると。半分のぞんで。後づ
さげぬ。此目仏と。聖賢者子ら。おろく屋に
ませう。あまぬけ。た人のいふやうがある。さう
所の隠居が杖とつて板摺とわらう。中絶の

續々九卷八十一頁

まゝ。色がうらやま。活しや。活しよ。一たんや
外。身。鼻。は。い。も。大。意。う。ら。も。う。ん。や。て
も。合。点。が。回。る。も。テ。お。ま。文。が。ま。い。の。こ。う
が。活。し。や。小。人。と。思。ふ。し。の。わ。ら。ひ。の。こ。う
ま。せ。り。ま。く。し。も。樂。め。の。小。人。あ。ら。ら。ぬ。ん
お。心。が。わ。ら。ひ。の。こ。う。あ。ら。ま。い。の。こ。う
も。お。こ。こ。情。い。心。の。こ。う。の。こ。う。小。人。に。ま
の。怒。り。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。情。い
ん。の。月。心。と。い。う。ま。い。ど。人。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う

の。あ。ら。ま。い。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う
か。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う
ゆ。も。聖。賢。人。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う
人。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う
ま。る。活。し。よ。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う
く。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う
お。ま。い。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う
人。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う
ご。り。ま。い。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う。の。こ。う

徳と九十九

かゝゆがうらぬ中じう。在のぬきまうと。うか
しこふ。盜賊かろり。在方町こあひやうまうい
一日もやうとんらごらうまうせうんご。盗人
計三人。夜ふけく。うら家とらぬい。戸のすれ
よ。ぬきまうのぞらうまうまう。うらのに十半の
女。一人田軒裏のふあすけり。粥と煮く
屋りまうしう。振ふじや。けか。うと人やうら。
なやぶらぬ。居まうりうら。妓女粥のふえか賊
と。賊まうとらぬとらぬとらぬ。粥のうらとらぬ。けら

かたり着うと。粥か。煮の上ふとらうと。上振を押
けら。粥。金ふ。中ふ。うきまうの。そのけ
のらうとらぬとらぬ。盗まうとらぬ。うけぬとらぬ。
うら書物。うらまうと。まうとらぬ。獨と情じのま
けら。ごらうまう。ぬらうとらぬ。合點。ごらうとらぬ。これ
人のぬきまう。や。こらう人のまう。ぬらうや。まうの
半。うらまう。あうまう。けら。まうのまう。まう。我
ひらう。うらぬとらぬ。ぬらうのまう。うらぬ。まう。まう。まう。まう
あまう。うらうらう。や。まう。まう。まう。まう。まう。まう。まう。まう

續々

らぬ。かうすべきが物なげし。此れらと物なげし
て。喊多ふ方り。必物なげし。此れらと物なげし
後らるる。世の中。と。此れらと物なげし。此れらと物なげし
つ。人の物なげし。此れらと物なげし。此れらと物なげし
て。此れらと物なげし。此れらと物なげし。此れらと物なげし
此れらと物なげし。此れらと物なげし。此れらと物なげし
さ。此れらと物なげし。此れらと物なげし。此れらと物なげし
す。此れらと物なげし。此れらと物なげし。此れらと物なげし
つ。此れらと物なげし。此れらと物なげし。此れらと物なげし

又つ。人の物なげし。此れらと物なげし。此れらと物なげし
清水れ。此れらと物なげし。此れらと物なげし。此れらと物なげし
向ふ。此れらと物なげし。此れらと物なげし。此れらと物なげし
もよ。此れらと物なげし。此れらと物なげし。此れらと物なげし
せ。此れらと物なげし。此れらと物なげし。此れらと物なげし
此れらと物なげし。此れらと物なげし。此れらと物なげし
なり。此れらと物なげし。此れらと物なげし。此れらと物なげし
ら。此れらと物なげし。此れらと物なげし。此れらと物なげし

吾^{われ}の^{ふし}け^{さか}る^も。朱^{あし}文^ぶも。そ^とと^りく^も。あ^まの^{こと}。朱^{あし}の^{こと}。そ^とと^りく^も。あ^まの^{こと}。朱^{あし}の^{こと}。
致^{せい}畏^いと^{おん}。え^きま^ずす^{こと}。ま^じら^す。あ^まの^{こと}。
ゆ^りの^{こと}。ま^じら^す。あ^まの^{こと}。ま^じら^す。あ^まの^{こと}。
ゆ^りの^{こと}。ま^じら^す。あ^まの^{こと}。ま^じら^す。あ^まの^{こと}。
ゆ^りの^{こと}。ま^じら^す。あ^まの^{こと}。ま^じら^す。あ^まの^{こと}。
ゆ^りの^{こと}。ま^じら^す。あ^まの^{こと}。ま^じら^す。あ^まの^{こと}。
ゆ^りの^{こと}。ま^じら^す。あ^まの^{こと}。ま^じら^す。あ^まの^{こと}。
ゆ^りの^{こと}。ま^じら^す。あ^まの^{こと}。ま^じら^す。あ^まの^{こと}。
ゆ^りの^{こと}。ま^じら^す。あ^まの^{こと}。ま^じら^す。あ^まの^{こと}。
ゆ^りの^{こと}。ま^じら^す。あ^まの^{こと}。ま^じら^す。あ^まの^{こと}。

ま^まら^らつ^つ。及^おび^び。い^いと^も。け^けの^こ。ひ^ひの^こ。ま^ま。ひ^ひの^こ。ま^ま。ひ^ひの^こ。
ま^まら^らつ^つ。及^おび^び。い^いと^も。け^けの^こ。ひ^ひの^こ。ま^ま。ひ^ひの^こ。
ま^まら^らつ^つ。及^おび^び。い^いと^も。け^けの^こ。ひ^ひの^こ。ま^ま。ひ^ひの^こ。
ま^まら^らつ^つ。及^おび^び。い^いと^も。け^けの^こ。ひ^ひの^こ。ま^ま。ひ^ひの^こ。
ま^まら^らつ^つ。及^おび^び。い^いと^も。け^けの^こ。ひ^ひの^こ。ま^ま。ひ^ひの^こ。
ま^まら^らつ^つ。及^おび^び。い^いと^も。け^けの^こ。ひ^ひの^こ。ま^ま。ひ^ひの^こ。
ま^まら^らつ^つ。及^おび^び。い^いと^も。け^けの^こ。ひ^ひの^こ。ま^ま。ひ^ひの^こ。
ま^まら^らつ^つ。及^おび^び。い^いと^も。け^けの^こ。ひ^ひの^こ。ま^ま。ひ^ひの^こ。
ま^まら^らつ^つ。及^おび^び。い^いと^も。け^けの^こ。ひ^ひの^こ。ま^ま。ひ^ひの^こ。
ま^まら^らつ^つ。及^おび^び。い^いと^も。け^けの^こ。ひ^ひの^こ。ま^ま。ひ^ひの^こ。

（Marginal notes on the left side of the page, partially obscured and difficult to read.)

とく御名印目がつかはせらるるの御事なれば
かゝります。とて百姓が御事なれば。御事なれば。
いふくふらけて。せらるるの人を。いふくふらけて。い
ふくふらけて。いふくふらけて。いふくふらけて。い
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
御事なれば。御事なれば。御事なれば。御事なれば。御
御事なれば。御事なれば。御事なれば。御事なれば。御
御事なれば。御事なれば。御事なれば。御事なれば。御
御事なれば。御事なれば。御事なれば。御事なれば。御
御事なれば。御事なれば。御事なれば。御事なれば。御
御事なれば。御事なれば。御事なれば。御事なれば。御

分と。士農工商をまわりの分ら。御事なれば。御事なれば。
御事なれば。御事なれば。御事なれば。御事なれば。御
御事なれば。御事なれば。御事なれば。御事なれば。御
御事なれば。御事なれば。御事なれば。御事なれば。御
御事なれば。御事なれば。御事なれば。御事なれば。御
御事なれば。御事なれば。御事なれば。御事なれば。御
御事なれば。御事なれば。御事なれば。御事なれば。御
御事なれば。御事なれば。御事なれば。御事なれば。御
御事なれば。御事なれば。御事なれば。御事なれば。御
御事なれば。御事なれば。御事なれば。御事なれば。御

一、また後にも十二月の大晦日おぼろみそひにち出いし、
 はんご山のぞく。物づへ〜。彼も嘆へなげるまじぬ。
 いらげ〜んまごら。皆をま〜く小見おがみのあり〜。け
 ととよとね〜物とね〜も。モウあそい。ま〜み
 和生のゆめか〜や。や〜くお〜〜めゆう〜。
 つ〜ねばなうゆめ。かんご〜ハあま〜花〜ん
 ち〜れ。け〜めあま〜ハ〜とあ〜いとゆり
 と心の果ぞか〜〜とよ。新造令位と〜
 立〜〜ヤ〜せぬ。か〜がゆあふ。中〜り。ま〜

その位ふ素〜して〜。その〜とね〜
 とい〜の〜。〜ります。〜は〜。お〜
 いら〜がある。さう素人のま〜へ。〜
 まして。モシ具物。よの〜と〜ら〜。ま〜
 代が〜。〜が〜。ホニけ素〜ん
 代が〜。書付の〜。誰〜つら〜
 代が〜。武家傍。辨慶が。〜の素
 代が〜。〜。〜。代〜
 代が〜。〜。〜。〜。

一、また後にも十二月の大晦日

ヨレクこまのきりりいりあふこのまをまき。まきい
 りたど。時代がみえる。鼎をいもいもいもいもいもいも
 礼でいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 撲登の捕の板ともいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 濃のうまお。いもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 代。いもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 あかあ。あかあ。あかあ。あかあ。あかあ。あかあ。あかあ。あかあ。
 作トハ。いもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 らさ。和鮮王味のちとまら。いもいもいもいもいもいもいもいも
 いもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも

くまら。いもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 こまもつら。いもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 ば。いもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 のき。いもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 ば。いもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 め。いもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 う。いもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 しの作。いもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 この事。いもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 仕入る。

續日本書紀

廿

の中うと。然此系や弁久又。年名しかくし。指年なるく。わらうも志ま世の。うらう。と。代と。兵弁ふたきつづきとす。を印。通。り。右。世。變。の。為。つんぐ。あ。る。人。は。は。あ。と。う。決。し。と。兵。ご。ら。お。埋。伏。し。て。居。よ。う。も。志。ま。る。四。仲。終。に。ぬ。ま。せ。ら。ど。く。大。事。大。切。の。指。が。ぬ。け。ら。と。大。體。初。の。り。わ。ら。や。四。月。心。な。ら。ん。ま。せ。休。息。

續々鳩羽道結二之下

男 武修 聞書

隠方より見。うらう。の。か。く。微。より。う。ら。う。う。ら。う。え。あ。い。か。が。田。志。お。ま。り。う。その。福。と。懐。し。む。前。の。致。畏。乃。あ。ら。う。を。存。し。く。天。命。の。性。を。や。し。な。し。の。み。ま。と。四。志。あ。い。な。れ。出。い。今。一。版。う。ら。う。う。ら。う。者。察。乃。み。ま。と。四。志。あ。い。な。れ。し。の。と。志。う。り。ま。す。者。と。の。事。ふ。この。心。存。も。う。や。音。や。と。者。察。の。善。欲。忍。死。

續々鳩羽道結二之下

と。つらううふ布ちぢみつらう。天命の性しんを合あうすは
 しいごごりまますまがやんんか文ぶんよ。意いらうようあうくう
 かうとん。人の心こころれ半はんとチヌのこごりまます。又また徴てい
 よう。形かたちなるうううん念ねん念ねんの徴ていなる半はんとりの
 ごとごりまます。ごごりしん徳とくとん。ごごりしん知ち
 ごとりの物もの形かたちし。たまら念ねん念ねんのうごこ
 とらりとごごりしんチヌのよちた智ちの人ひと乃なり
 申まごごり。ごごりの中うちら。後あととあご
 くのゆゑ。むらむらごごりしんとるしんチヌしんまます。と

ぞ。よい見みも極ごく意いと。よの我われらう知ちるこ
 ろの物もの極ごくめますりのしや多おほくくここをる
 の人ひと乃なり。不ふ忠ちゆうふ者しやふあら入いまするもゆいく
 夏の樂らく王わう般ぱんの討とう王わうかかの。天てんととれれ。そそを
 ばはまますするる。ごごくくたた僕ぼくふけけしし知ちる。ああるる
 の徴ていなるああうう。記きのごごりまます。たたととんんはは
 ぼぼからら熈き叶えつの火ひらら。大おほ火か半はんととなるるなるる
 一いややららふふ係けいるる。省しやう念ねんのうんんととるる。つつ
 と加かへへむむむむせせのけ徳とくととるる。半はん。僅わずかな

續々九氣の経二下

半のやうにおごさりませうとぞ。そまうしう。天地位し。
 万相中ふりうにおありませう。又この独あるところを。
 ううくと御説しておさませうとぞまうしう。おまをと
 がい。おまを中う。所とうしう。まうしうのじや。ナント
 ぞうしうのてんあうりませう。おまを。念を思前
 とうまう。鬼林も知るまうしう。け一念の
 扇まうしう。鬼林もまうしう。知るまうしう。おまをませう。
 かせうまうしう。知るまうしう。半がまうしう。まうしう。
 まうしう。ひり。飛浮の山中。おまをのまうしう。まうしう。

之を後まうしう。御説ごさりまうしう。一日例のまうしう。山入
 ろ。細工とまうしう。おまを。おまを。杖の本乃。おまを。空のまうしう。
 山伏が。おまを。ひり。けう。まうしう。おまを。まうしう。かの細工人
 ろ。おまを。あや。まうしう。まうしう。山伏の。天物まうしう。おまを。まうしう。
 かの山伏。おまを。けう。我と天物まうしう。おまを。おまを。ひり。
 まうしう。へ。細工人。ひり。けう。まうしう。おまを。まうしう。半。
 まうしう。おまを。おまを。まうしう。かの山伏。おまを。おまを。け。
 まうしう。おまを。まうしう。まうしう。おまを。おまを。まうしう。
 ろ。細工人。おまを。おまを。まうしう。おまを。おまを。まうしう。

お一人十人しよこ。よづらぐまそ。枳板「まひさういこ」
飛ぶかの山伏の鼻括く。びびくあはれが。山伏一撃
とくひひ。さうくかのきり。元の志まの思ひまよ。又
しとしが。かどけすやうふまこと。つら書おふんこ
まなり。是かの天物も。人の念と思のおころあはれ。あふり
おろし。まふまふ。念思の起くあふりまふ。世物のしんじ
ころころ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。

朱文も己いし。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。
あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。あふりまふ。

勢の地獄にびんとまゝなりて、その方の如く
で教とく。後の方からまづ。ゆやう
まゝ居らんやうなり。ごうまゝとて日と暮さ
うとせう思ふ。ふるでまゝなり。又人のまゝなり。
たゞうつくしく悔しくなり。此日の如く
歌討つてこの後とておそく伊集原に
とらん。美濃がたびひ女房とまゝなり。今の方
まゝ。白人ふやううまゝなり。伊集原
乃女房の如く、妹の如く、おそく、
恨み

百六拾五小所とて。後と伊集原の女房の如く
がいりうとく。石黒を思ふ。妙きや文と
あつる。慈歌のまゝなり。かのてがが、伊集原
の如く、おそく、伊集原の如く、おそく、
通用の如く、おそく、伊集原の如く、おそく、
今、此の如く、おそく、伊集原の如く、おそく、
まゝなり。伊集原の如く、おそく、伊集原の如く、おそく、
が。おそく、伊集原の如く、おそく、伊集原の如く、おそく、
まいとて、おそく、伊集原の如く、おそく、伊集原の如く、おそく、

伊集原の如く、おそく、伊集原の如く、おそく、

おりのうら。ましくと泣けり。たまりて。何
 ともし。す。そ。な。と。く。う。一。さん。お。ま。人の。あ。く
 うけ。い。あ。う。申。さ。る。も。本。心。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の
 か。ま。の。う。さ。り。明。と。こ。の。人。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の
 一。く。ま。い。あ。い。の。月。夜。う。ま
 一。お。り。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の。人。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の
 と。この。あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の
 か。さ。や。う。つ。こ。や。う。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の
 親。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の

あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の
 う。ま。い。あ。い。の。月。夜。う。ま。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の
 且。明。徳。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の
 何。れ。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の
 り。び。い。か。け。ま。ら。け。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の
 か。い。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の
 何。れ。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の
 う。ま。い。あ。い。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の
 一。く。ま。い。あ。い。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の。あ。い。ん。れ。ご。く。の

同のふすけと口... 又盗賊と入大望人の...
佐と若とと極... 盗のふすけと...
トヤ。ほどふあめを...
とすけともあ... 又あまの...
トヤ。そは浄... けり...
忠孝の... へとな... 又...
ふ孝の... 本も... 幸か...
と... ぬの... けり...
殿が... と... 有... 半...

ね。是トヤふ... 拙と...
耳... ぬ... けり...
ぬ... の... と... 若...
と... 主人... ぬ... 若...
あ... 執... と... けり...
秘... け... と... 聖...
常... け... の... と... 味...
う... 扱... と... ぬ... の...
け... と... け... と... ぬ... の...

秘傳。人ぎくつらうごとい。おぼや人のおふしでござう
 ます。たとふ帳ふかすにらりとさ。そを帳口と
 そいつぐすのまじ。たらまらふ活のやみそのぐ。
 一念きざし。怒とまらう。チャットやめよ十人
 し。怒かへ毒らまらうぬ。こまを捨ておくら。
 怒が。怒ぐ。後の中ぐ。ちらうう。潜流時
 長とつら。目あたらねど。このらふや。心の
 怒が。怒ふあうのま。やめよまらうても。相人が出
 来く。やうまら。やうふめまらう。吸ぐうのやう。

ふくくくくく。仕はるくまど。大平。よれくかうの
 水も。借ももさうぬ。只一念。我殿のつらふ。怒が
 とらうん。怒をやめよすらう。そのまら。でござう
 ます。ドブゴどまのこも。う。とお。初めたをたして下さ
 ます。世。さそかの子代どの。主人の怒。か。お
 う。お。怒を。あま。やう。さ。怒。お。め。さ。も。怒。
 ど。怒。人。同。台。せ。お。ま。さ。バ。怒。怒。代。どの。
 念。子。を。わ。く。こ。の。ら。サ。ア。こ。ま。ら。う。大。怒。さ。お
 かう。怒。人。を。呼。お。や。ら。ト。若。よ。え。そ。り。ハ

中。よと少いとゆげう守とくろへ。七の時のふらうの
 子代どのが。ゆゑあいの作。りづらと来とけ家
 の書。頭どのが。いらく。後。明。さう。ま。し。け。の。お。か。め。
 子代の戻るうさ。そ。新。け。と。ま。ま。と。思。う。め
 顔。色。是。り。し。を。ん。ま。は。か。く。ぐ。の。ま。結。と。し
 い。い。わ。る。あ。つ。も。か。く。い。納。ま。田。の。結。乃。け。と
 女。重。踏。ま。し。け。奴。作。を。う。ろ。う。と。り。か。し
 る。く。何。さ。あ。る。細。い。ん。と。あ。づ。う。ふ。金。子。と
 印。を。別。系。なく。北。百。あ。も。ら。帰。ら。く。あ。ぬ

へわ。く。し。ま。子。ソ。コ。テ。書。頭。が。つ。く。ろ。く。い。ゆ。り。の。ま。う
 め。と。子。印。も。年。の。と。く。ま。と。何。れ。つ。ま。ま。と。う。す
 け。と。つ。く。ろ。ゆ。り。二。つ。階。へ。よ。ろ。く。一。株。入。ぬ。よ。と
 い。ま。ま。ま。か。の。子。代。と。ま。ま。を。あ。か。よ。北。う。い。く。よ。つ
 る。強。ち。も。あ。ま。先。人。ま。ま。と。ま。ま。い。く。わ。し。い。れ。ば
 安。堵。し。く。な。と。あ。づ。あ。ま。し。く。し。書。頭。の。つ。く。め
 へ。く。く。く。ま。感。心。な。る。ま。ま。こ。ご。り。ま。ま。と。ま。ま。の
 我。ま。づ。う。ふ。ま。ん。こ。ま。ま。の。後。引。負。の。金。子。北。指。あ。ま
 幸。ふ。お。あ。け。な。か。ま。ま。ま。今日。の。ふ。あ。な。り。く。く。す。し。

そのうへ 仔細 侍 傳 書の ねごと。 寄 づつと。 秘 ぞ
表 のんが 瑞 つとる 振子。 妻 細 小 出 ませし。 一
い 宿 ごと おん くら へ 下 した。 一 寄 づつと。 秘 ぞ 入
に 仲 ごと さん ませし。 一 寄 づつと。 秘 ぞ 入
ま 人 へ 妻 細 小 出 させ。 一 寄 づつと。 秘 ぞ 入
ま 人 へ 妻 細 小 出 させ。 一 寄 づつと。 秘 ぞ 入
出 せし。 一 寄 づつと。 秘 ぞ 入
ま 人 へ 妻 細 小 出 させ。 一 寄 づつと。 秘 ぞ 入
は 一 寄 づつと。 秘 ぞ 入

が。 一 寄 づつと。 秘 ぞ 入
小 一 寄 づつと。 秘 ぞ 入
一 寄 づつと。 秘 ぞ 入
ま 一 寄 づつと。 秘 ぞ 入
一 寄 づつと。 秘 ぞ 入
一 寄 づつと。 秘 ぞ 入
一 寄 づつと。 秘 ぞ 入
一 寄 づつと。 秘 ぞ 入
一 寄 づつと。 秘 ぞ 入
一 寄 づつと。 秘 ぞ 入

面^か白^りい^ろく^くト^ヤこ^こり^ませ^ぬぬ[。]是^らち^きら^んん
 房^の車[。]こ^りト^ヤあ^いい[。]あ^まり^とお^くま^らん^の
 月[。]あ^まり^とお^くま^らん^の月[。]あ^まり^とお^くま^らん^の月[。]
 月[。]あ^まり^とお^くま^らん^の月[。]あ^まり^とお^くま^らん^の月[。]

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

